

## 歌麿大作 「深川の雪と吉原の花」

岡田美術館（箱根・小湧園） 2017.07.28～10.29

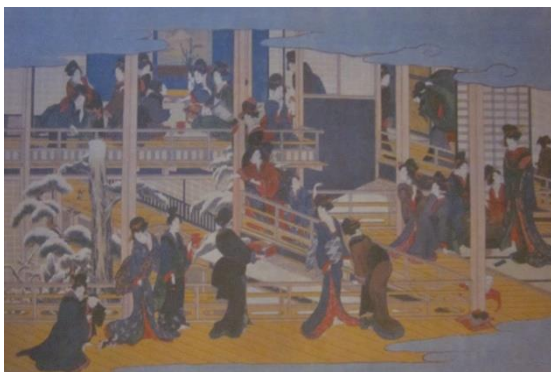
「喜多川歌麿」（1755 頃～1806）は、江戸時代の浮世絵界を代表する美人画絵師で、女性の上半身をクローズアップした「大首絵」や「美人画」で絶大な人気を誇り、世界的名声を博して今尚人々の心を惹きつけて止まない画伯である。



### 「吉原の花」 1791～92 年頃 186.7 x 256.9cm

吉原仲の町とそこに植えられた桜を前景にした遊樂のありさまで、舞台は引手茶屋であるが明らかに誇張されているとされ、下方左側の一群は「高級な遊女一行」で、中央で赤毛氈に腰掛ける打掛を着た女性は「花魁」、そして2階では「上級武家の奥向きの女性たち」が舞台を見物するという光景を大きな画面に誠に緻密に描写されている。

### 「深川の雪」 紙本着色一幅 1804 年 198.8 x 341.1cm



この作品は、師匠の最高傑作である遊所風俗「雪月花の三幅」のうち最後に制作された一幅で、画面中央の2階の座敷では、三味線を弾く芸者たちで賑やかに盛り上がっている。家屋の中では、さまざまなポーズの27名の女性がS字を描いて配置され、バランスよく配置され見事な構成力を示している。

画伯の三部作で特筆すべきは、夫々の作品がとてつもない大きさで、本作は“縦約2m x 横約3.4m”もあり、他の2作品も大画布であることである。

本展では、長年行方不明であった画伯の大作「深川の雪」と米国から「吉原の花」が来日して、“138年振りの奇跡的な夢の再会”として脚光を浴びている。

尚、「品川の月」（1802～06年頃）は門外不出のため「高精細複製画」である。

三部作のうち「吉原の花」と「品川の月」は、アメリカの美術館の所蔵であるが、「深川の雪」は戦前に日本へ戻り、現在「岡田美術館」収蔵となっている。